

○事務局

それでは、開会に際しまして、静岡県教育委員会教育長から皆様に御挨拶申し上げます。

○教育長

皆様、こんにちは。

本日は、御多忙の中、第12回社会教育委員会に御出席を賜りまして、誠にありがとうございます。委員の皆様には、2年間で本日含めて12回。ということは、二月に一遍ぐらいですね。非常に頻繁に御出席を賜りました、本当にありがとうございます。

社会教育を基盤としたウェルビーイングの実現に向けて、事例報告、グループワーク、また会議室の外でのいろいろな視察もと伺っております。大変、熱心に御協議をいただきました。また、委員会とは別の事業とはなりますけれども、昨年11月、教育委員会主催の静岡県生涯学習推進フォーラムの際には、委員長をはじめ、3名の委員の皆様とトークセッションを通じて、生涯学習とウェルビーイングに関する理解を深めることができました。

今、受け取ったこの案を、ざっとページをめくる中で、冒頭の御挨拶でしょうか、「はじめに」の中で、そのフォーラムのことを添付していただいています。この会議の期間中、2年の任期の間で県の教育長と意見交換をする。しかも、単に1回対面するだけではなくて、フォーラムに向けて結構突っ込んだ意見交換もしました。そういう機会を持てたことが貴重であったと書いていただいて、本当に私もうれしく思います。

私も、もともとは大学教員だったものですから、去年の11月のフォーラムに向けては、久方ぶりの研究者モードで本や論文を結構読みまして、プレゼンもかなり気合いの入ったものを準備させていただきました。その甲斐あってとは決して申しませんが、かなり限られた時間ながら、かみ合う議論ができたなと私は思っております。それも予定調和的な議論ではなくて、フォーラムの場に出てきた皆さんや登壇者の皆さんからの御発言を受けて、私も質問を発したり、あるいはその質問の意図はどうですかというやり取りがあったりして、一緒に深い議論が展開したなと印象を受けました。

また、先ほど、委員からお話を伺いましたが、あれをきっかけに愛知県からお声がけいただいたということで、私ども静岡県の取組が他県にも影響を及ぼしている、ちょっと傲慢ですか、影響を及ぼしていることを大変誇らしく思います。それもひとえに、この社会教育委員の皆様熱心な深い御議論があつてのことだと私は認識しております。

本日、まとめの報告については、最終討論がなされると伺っています。12月の県教育委員会定

例会において、委員長より御報告をいただけると伺っております。皆様からいただく御意見については真摯に受け止めて、時代の変化に対応した、誰一人取り残さない社会の実現に向けて、可能な限り事業に反映してまいりたいと考えております。

この間、静岡県の知事が交代いたしました。前知事とはかなりテイストの違う知事で、ウェルビーイングも前面に押し出しております。今週月曜日、東京新宿でいわゆる県人会の集まりがありまして、数百名の方がいらっしゃったんですけど、その冒頭40分ぐらいかな、知事が自らパワポを操作しながら、施政方針をお話する場面がありました。その中でも、ウェルビーイングがかなり前面に押し出されていたことをこの場でも皆様と共有したいと思います。

一方で、ウェルビーイングは、今、人々の中で定着しつつあるなという印象を持ちますが、ある意味、平板な理解のまま入っていったような気がして、私はそこに一抹の危惧を覚えております。身体的、精神的、社会的によい状態。分かりやすいですけど、それって一体何なのか、どういうことなのかというところまで深めていかないと、言葉だけが一人歩きするような、そんな恐れも持っているところなので、今日ちらっと見たところかなり踏み込みがなされているなという感じですので、この報告書を受けて、また、私どもとしても考えていきたいと思っています。

もう一点。前回、フォーラムでも話題になったことで、今回、先ほど言及した知事の東京での話の中でも出てきましたけど、多文化共生、つまり、日本の社会において静岡県においてウェルビーイングと言うときに、暗黙の前提でそれが日本人のという言葉が隠されていないかということです。つまり日本人にとってのウェルビーイング、もう少し踏み込んで言うと、日本人じゃない人たちのことは視野の外に置いたウェルビーイングではいけないじゃないかと私は常々思っておりますし、知事も、多文化共生については静岡県としても本気で取り組み、さらに静岡県から全国に呼びかけていきたいんだと申しておりました。

私どもも、県教委としても、外国にルーツを持つ子供たちのこと、しっかりと視野に入れていきたいと思っておりますし、それは学校の中のみならず生涯学習、社会教育の部分においても、今後より一層重要性を増してくる視点であると思っております。

ということで、今回、御提言いただく内容につきましては、県内の市町教育委員会をはじめ、地域の社会教育関係者、また県民の皆様にも広く伝えていきたいと考えております。

終わりになりますが、委員長、副委員長をはじめ、御協議に御参加いただきました委員の皆様、改めて厚く御礼を申し上げます。

皆様方のますますの御活躍を祈念するとともに、今後とも変わらぬ御指導と御協力を重ねてお願いいたします。2年間にわたり、誠にありがとうございました。本日の議論をもって今期は集大成になりますので、本日の議論もよろしくお願いいたします。

○委員長

それでは皆さん、こんにちは。ただいまから第12回静岡県社会教育委員会を開催いたします。

本日は、今、教育長のお話にもありましたが、最後の委員会となります。今日は、前回の委員会でいただいた御意見をワーキンググループで協議しまして、報告書の形を作っております。その報告書及び概要版につきまして、皆様の了承を得たいと考えております。本日も、どうぞよろしくお願いいたします。それでは、本日の会議の次第について確認をします。最初に事務局から、第11回社会教育委員会、第4回ワーキンググループの結果を報告します。その後、協議に移りまして、第38期静岡県社会教育委員会報告書について、まず最終確認をしていただきます。次に、報告書概要版について、説明を受けた後に協議をしたいと存じます。また、今日が最後の会合となりますので、委員の皆様全員から第38期のこの会合について感想等、最後に一言ずついただければと思います。本日も、教育長さんも言ってくださいましたけど、忌憚のない御意見を出していただいて、最後まで有意義な会合とさせていただきたいと思います。皆様の御協力の下に円滑に会を進めてまいりますので、御協力のほどよろしくお願いいたします。それでは、第11回社会教育委員会、第4回ワーキンググループの開催結果について事務局から報告をお願いします。

○事務局

資料1を御覧ください。大きな冊子の資料になります。第11回社会教育委員会の報告です。第10回委員会の報告をし、その後、協議事項として、各委員の実践事例について、ほかの委員の皆様から出された新たな視点を確認いたしました。2つ目として、第38期社会教育委員会報告書について、記載内容についての御意見をいただきました。続いて、資料2を御覧ください。

9月27日に行われましたワーキンググループで協議した内容です。「はじめに」と「おわりに」の内容の検討。そして、報告書全般について、第11回委員会で皆様から出された意見を、報告書の加除修正部分等について検討させていただきました。また、ここで初めて報告書概要版の検討もさせていただきました。本日の資料は、ワーキンググループでの内容をまとめたものとなります。本日の協議で御意見を伺うこととなっておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長

最終回の直前まで報告書の取りまとめをワーキングですることになってしまいましたけど、今日、この後の協議で御意見をいただければと思います。よろしいですか、皆様からは。早速、協議に移りたいと思います。(1) 第38期静岡県社会教育委員会報告書についてです。まず、事務局から資料に基づいて説明をお願いしたいと思います。

○事務局

資料3を御覧ください。表紙が最終案となっております。前回の委員会で出された御意見から修

正した箇所については、資料内に下線等を加えております。そちらを主に確認していただければと思っております。本日、最終確認となりますので、「はじめに」から第1章、第2章、第3章と続き、最後に「おわりに」と順に確認をお願いしたいと思います。最後に、巻末資料も確認をお願いいたします。大きく変更した部分として、19ページを御覧ください。20ページから事例を掲載しておりますが、前回の11回の委員会でこの掲載のまとめ方について御意見をいただきましたので、そこから修正をいたしました。修正では、分野別の掲載ではなく、取組を箇条書きとした部分となりますので、こちらも協議の中で見ていただければと思います。

以上となります。

○委員長

今回、最終確認になりますので、「はじめに」からの文章を、区切って時間を取るようになりますので、そこで御意見をいただければと思います。

まず、「はじめに」の1、2ページについて、何か御意見はありますでしょうか。ここは、私のほうで担当させてもらったんですけど、このテーマに取り組んでいく背景と、実際、どんな話合いをしてきたかということと。教育長さんにあのように言ってもらってよかったです。フォーラムが大変参考になったと書かせてもらって。委員会が開かれてる最中に、関わることはあまりこれまではなかったもので、特記事項かなと思っておりましたので、導入部分で書かせていただいています。よろしいですか。もし、何かあれば、また後で御意見をいただいても構いません。

続いて、第1章となります。こちらは、事務局を中心に、これまでの会合の中でも出たようなことも含め、まとめてもらいましたが、事務局から何かありますか。

○事務局

まとめていく中で修正したところは、表を見やすくするように、3ページの諮問問題のテーマの変遷を縦書きの部分を、横書きにさせていただきます。5ページから、海外の機関の報告書であることから、昭和、平成という和暦で書いている部分を西暦も含めて入れたほうがいいのではないかとということで、先ほどの多文化共生ではないですけど、全てに統一して両方併記したところが変更点になります。あとは、特に内容について変更してないですけど、若干、報告書を見やすいように変えてるところです。

○委員長

皆様から、何か御意見等ございますでしょうか。この際なので、すごい細かいところでもいいです。8ページ以降、県の取組の目指すものとか目標のところは、上と右はなくて、左と下が少し囲みの線になってるけど、それは意図的にそうしている。

○事務局

はい。

○委員長

ということですね。別にいいです。ここ、ボリュームがあるので、数分、時間を取りますのでじっくり御覧ください。

(資料 確認中)

○委員

いろんなことを書いてあるんですけど、具体的な事例があるといいかなと思いました。例えば5ページの下、教育振興基本計画・審議会の答申等で、昭和49年、派遣社会教育主事事業開始となっています。これは、具体的な事業で平成10年に終わってますけど、そのほかのところは、こういうことをやりましょう、こういうことですよと羅列してあるんですけど、具体的な事業名や具体があれば分かりやすいかなと思ったんです。計画とか提言とかいろんなものがあるんですけど、それに対して、具体的に事業として実現できたとか、そういう具体例があるとよろしいかなと思いました。

○委員長

では、ワーキングで検討させていただいて、入れられるものは入れる形で対応したいと思います。専門的だと分かりづらいのもあるかと思うので、そういう意味で、説明に近い具体例を入れられるようでしたら、入れたいと思います。そのほかはいかがでしょうか、よろしいでしょうか。

では、次に進みます。また、気がついたことであれば、その時点で御意見をいただければと思います。それでは、第2章になります。ここからが、本格的に私たちの議論を土台に提案をしていくものに向かったの文章となります。この前半のウェルビーイングの捉え方は、副委員長に書いてもらいました。15ページ以降は、この会合でずっと話し合ってきたことを取りまとめたものとなります。17ページもそうなります。19ページは、先ほど事務局からも説明がありましたが、そのまま羅列して、皆さんが参考にしようと思うものを見てもらうことで、グルーピングはやめることになって、19ページの状況になっています。ということで、副委員長、補足というか、何かあったら、よろしくをお願いします。

○副委員長

また、オンラインで失礼します。補足は、既に事務局に入れたのでいいかなと思うんですけど。

○委員長

では、皆さんから何かございますか。委員会で皆さんが出してくださった意見をまとめていって、何回かお見せしてますけど、ちょっとこれ入れてほしいとか、この表現はというのがあればお受けしたいと思います。ちょっとだけ時間取りますので、確認をお願いいたします。19ページは第3章に入っていましたので、一応、確認は17ページまで見ていただいたところで御意見いただければと思います。

(資料 確認中)

○委員長

それでは、大体よろしいでしょうか。では、引き続き第3章。私、先走って、19ページを補足してしまいましたが、20ページ以降が、皆様の取組の事例が載っています。御自身が御担当されたところに関しましてでも構いませんので、最終確認になります。ほかのところでもいいですので御意見等を出していただければと思います。こちら、今から少しだけ時間を取りますので、御確認をよろしくをお願いいたします。

(資料 確認中)

○委員長

よろしいでしょうか、3章についても、もし、御自身の御担当の部分で、誤植を見つけたとかそういうことあれば、また御指摘をいただければと思います。

○委員

本当に細かいことで申し訳ないですが、28ページの街中だがしや楽校、私が担当しましたページです。枠で、上から2段目の、主催者及び実施に関する連携先の3行目の中ほど、「三島市等の自治体「、」が欲しいです。警察署との間に、点を一つ入れていただけると助かります。細かくてすみません。よろしくお願ひします。

○委員長

大事ですよ。ね。「てにをは、点、丸」を含めて、違ったというのを見つけたら、よろしくお願ひします。

○委員

初めてこれを読んでくれる人たちの気持ちになって読んでみたときに、ちょっとどうかなと思ってお伝えするんですが。今回の社会教育委員会でこういう要素が中心になったという16ページの最後の1段落で、つながり、コミュニケーション、学びの環境というワードと、その後、学びの場をつくること、居場所があることという形で続きます。取組例を読むときに、その3つの語がどこ

にあるかなと見るかもしれないと思ったときに、それぞれの例の表の主な学習場所を例えば16ページに合わせて、学びの場とか学びの環境とするだけで16ページから事例の紹介につながっているなど見えると思ったものですから。そのままでももちろんいいですけど、初めて読んだときにはつながってたほうが読みやすいんじゃないかなと感じたものですから。

○委員長

ちょっと検討して、全部の表がそうなってるので、そこ修正をしてみたいと思います。

○委員

また御検討ください。

○委員長

でも、つながってきますよね、そのほうが。気にするところはここかみたいなの。そのほかはいかがでしょうか。

○委員

24ページ、25ページ、自分の担当したところですけど、24ページの一番下の、学習者等の意識の変容のところ、今さらながらですが、この1か月ぐらいですごく変容があったところがあって、もし付け足しができればと思っているんですけど。家庭教育学級を保護者だけで今までずっとやってたんですけど、ここに今、地域の人参加も呼びかけて、地域の人に来てやるような活動になっていて、保護者もそういった意識になってきているので、いろんな活動に地域の人が入るのが当たり前になってきている。今までこれを保護者だけでやっていたけれど、別にそうでなくてもよくないかというのが浸透してきたというか、その辺りが、どういう文言にしたらこの中に収まるのか、また後で御相談しますが、付け足しがもし可能であれば、させていただきたいなと思っているのですが、いかがでしょうか。

○委員長

相談に応じてくれるということで。

○委員

ありがとうございます。大丈夫ですかね。

○委員長

最新の状況で入れたほうが。どんどん状況が変わっている。最新のものを入れても、また古くなっていくので、入れたほうがいいものは入れていければと思います。

○委員

せっかく皆さんが見て参考になるようなものであれば、そういったものもできると思える1つになるのかなと思って。すみません、相談に乗ってください。

○委員長

では、対応を別途していきたいと思います。

○委員

今の委員の発言にもありましたページですけれども、裾野市のタスクだけこのページに裾野市と書いてないですから、それと合わせて。19ページの取組面の中にも、ちなみに小南地域でしたか。

○委員

南小、いっぱいありますもんね。

○委員長

いっぱいある。

○委員

ですから、ここに、裾野市・小南地域交流クラブとか、裾野市をもうちょっと強調したほうがよいのではないかと思いました。

○委員

ありがとうございます、ぜひ。

○委員

先ほど、委員が御指摘になったところで、16ページの下から4行目です。学びの場をつくるの「つくる」が、その次のページでは創出になっているんですけど、この「つくる」のを漢字で書くか平仮名で書くかで、受け取り方のイメージが違ってくると思うんです。何か「作る」というと、

ハード施設を造るとか、そういう感じだけれども、もうちょっとふんわりしたものでも、「つくる」と表現することがあるので、もし差し支えなかったら、「つくる」と平仮名で書いた方がいいのでは。

というと、また初めから「つくる」を見ていかないとならないけれど。その隣に創出という言葉があるので、この「つくる」も、もうちょっと考える余地があるのかなと思いました。

○委員長

ちょっと、それは検討したいと思います。裾野を入れるか、書いた人に確認して。入れたほうがいいですね。どこの南小なのか。

○委員

そうですね。

○委員長

これは入れる方向にします。ほかの事例は、場所が分かりますので、このままで大丈夫です。そのほか、いかがでしょうか。

○委員

報告書ですけれど、17ページでは、社会教育の役割と方向性を、最後のほうの行では、現在の活動をつなぐりに着目して振り返る必要性を提言したいということで言葉が終わっております。その次のページ以降は、ウェルビーイングの実現に向けた社会教育で、あとは活用の事例という形で、ずっと後ろのほうまで綴られています。この報告書の皆さんの活用事例を見て、これを見た方は、自分たちがどんな形で活用できるかなと考えるでしょうが、提言書としましては、読み終わった後に、学びの場を提供するためのつながりみたいなのがあって、総括みたいな言葉が少し欲しいのか、どうなのかなと思ったものですから。そここのところは、こういう形の流れで進んできて、最後に事例があって、それぞれを見ていただければ、見た方が感じ取るとは思うんですけれど。報告書としては、総括みたいな言葉も欲しいのかどうなのかなと思ったものですから。そこは絶対必要だよという話じゃないですけど、感じたことを言わせていただきました。

○委員長

19ページに、今回の報告書は、これを自らの活動でやってみてください、やり方についての説明会はやったほうがいいかもしれないですけど、やってみてくださいという提案なので、19ページには、取組名の前に「そのつながり方に正解はないが、現在行っている取組を見直すことは大切

であり、本報告書の実践事例を参考に、それぞれが実践している現在の活動を確認するきっかけとしていただきたい」と書いたので、あえてまとめなかったんです。最後の1段落を、ページを変えて出すとか、19ページの取組名の下とかに置いて、自分もやるんだといった認識を持ってもらうとかにすればいいかなと思ってるんですが。ここに挙がってる事例の分析結果をまとめるかどうか、事務局案ではまとめる方向は出てきたんだけど、まとめるとそれに引っ張られる人が多いので、結局、そこだけ見て。チェックシートはやらずに、世の中、こういう所とつながるといいみたいね、じゃあ、つなげようかと。でもそれは、その人が持ってる事例には合わないかもしれない。そこをつなげたところで効果はない。だから、それぞれの立場での事例を、それぞれにチェックシートをやってみてくださいと提言したくて、見た目が尻切れトンボに感じてしまうけれど、ワーキングではあえてまとめなかったところがあるんです。

ただ、このチェックシートをやってもらいたいので、そういうメッセージなんですというのが、もうちょっと分かりやすくないといけないんだと、今、委員の発言を聞いて思いました。19ページに余白もあるから、17ページも四角枠で役割と方向性を目立たせているので、それに対応してチェックシートをこういうふうに使ってほしいですというのが、この報告書のメッセージですとすればいいかなと思うんです。すみません、委員長の手勝手な意見ですけど。どうでしょうか、という方向にしたいと思うんですが。また、ワーキングで相談します。

○委員

はい、分かりました。とにかく、ちょっとやってみてくださいってことですね。

○委員長

そうです。

○委員

今の19ページで、もし私が間違えて聞き漏らしていたら、ちょっと繰り返しになって申し訳ないですけど、取組名で、次のページからの題名をここに箇条書きにさせていただいているわけです。取組名の上の段、本報告書の実践事例を参考に活動のきっかけになるように参考にしてもらいたいということで、下に取組名と書いていただいているんですけど、本報告書の実践事例を参考にと書いてあるので、取組名ではなくて、括弧書きが実践事例になれば、次につながって分かりやすいのかなと思いました。

○委員長

そうですね。ここ、表現を何回も変えていく中で、取り残してたところがあるかなと思うので、

ありがとうございます。ここのタイトルの検討もしたいと思います。そのほかは、いかがでしょうか。

いろいろ御意見、ありがとうございました。まだ時間ありますので、また気がついたことあれば御指摘をいただければと思います。それでは、「おわりに」を見ていただきまして、こちらについても御意見いただきたいと思いますが、委員から何かあれば、お願いします。

○委員

今、読み返してみて、ちょっと直したいなと思っているのが、終わりから2段落目の静岡新聞のコラムの欄の表記です。その上から3番目が丸い括弧でつながれているんですけど、これは引用を示す、もうちょっと鋭いかぎ括弧で書いたつもりが、うまく伝わらなかったと思うので。例えば、その前に、「かぎ括弧して、何々の場所、かぎ括弧とじる」みたいに、誤解を招きにくい表現に変えたいと思いますので、その辺は御了承ください。引用だということがはっきり分かるようにしたいと思います。例えば、ある委員はというのは、別にある委員は、発言するんだから委員だと思って、ちょっとの表現は変えますので、御了承ください。

○委員長

委員には、全体を見渡してのまとめを書いていただきました。皆さんから、いかがでしょうか。

そうしましたら、巻末資料が38ページからになります。ワーキングでは、ふじのくに地球環境史ミュージアムのことと、県立夜間中学のことは資料で載せるとしたんですが、報告書のチェックシートに直接的には関わらない内容なので、載せなくていいんじゃないかとなっています。その辺りは皆さん、いかがですか。よろしいですか。一応、行ったことは、42ページの審議経過の概要に載っていますので、そこに興味がある人はアクセスしていけばホームページなり、いろんなものでその情報には触れられると思いますので、巻末資料には載せないことに今なっています。その点は、いかがですか。よろしいでしょうか。では、載せない方向で最後、まとめていきたいと思えます。また、少し御意見等ありましたら、この委員会が終わるまでに御意見いただければと思います。よろしくをお願いします。

それでは、協議は次に進みたいと思います。(2) 第38期社会教育委員会報告書概要版についてです。こちらについて、事務局から説明をお願いします。

○事務局

では、資料4のカラー版などを御覧ください。本日の報告書最終版を基に概要版を作成いたしました。第38期の報告書の中心となる部分は、チェックシートを作成したことです。そして、現在の取組を確認するきっかけとして使ってほしいということも併せてのところ。概要版にもチェ

ックシートを入れたいということで、本来、A4版の1枚で、これまでずっと概要版という形で出してきたんですが、38期について、A3版を広げていただくと、内側にチェックシートがある。折って表紙が概要版という形で作成してはどうかということで、今回、案として出させていただきます。市町等で、例えば「こちらをチェックしてね」と渡したときに、A3の半分がチェックシートで、裏に行くと概要版が半分という形で、例えばチェックシートを切り離して、概要版が手元に残るなどのように使うことも考えられるようになっております。

○委員長

見開きになるようにして、配って、やってみましょうと言って、もし会合等でやったら、チェックシートだけ提出してもらって、後で返しますといったときは、この半分切って出してもらって、概要版は持って帰ってもらえて。チェックシートは確認後、また返すみたいな使い方もできることで、せっかくチェックシートを報告書に載せても、普及しないと意味がないので、大体、概要版はいろんなところで配るので、そのときにチェックシートをつけようということで、この形にしました。こちらについて、御意見、御質問等ありましたらお願いします。これ、カラーコピーを前提にカラーにしたってことですよ。

○事務局

はい。

○委員長

今、カラーコピー、大体できるよね。データも載るんですよ、教育委員会のホームページに。だから、スライドというか、皆さんに見せる形も使えるということですよ。それを考えると、カラーにしといたほうが分かりやすいということかなと思います。

○委員

概要版の内容については、すごく見やすくいいと思うんですけど、先ほど委員長が最後に、私の質問に対して答えてくれた言葉。まず、チェックシートを使ってみてくださいというところが、今回の我々の答申書の内容になるんじゃないかと思うのですが、ここの概要版に、何かチェックシートを使ってくださいと、大文字にするとか、ちょっと目立つような文書にしてもらったらどうなのかなと思いました。

○委員長

「おわりに」でまとめるだけでなく、使いましょうというメッセージを。

○委員

使いましょうとか、そこをちょっとメインに。

○委員長

そうですね。もうちょっと強調できるようにしたいですね。分かりました、ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。

○委員

真ん中の右側、青い字のところにある、「さまざまな学習者（主体）同士のつながり」と書いてありますけど、一番下は、「社会教育には多様な主体がある」。この主体は、実施するほうの主体なのか、学ぶほうの主体なのか。その後のつながりチェックシートによると、実施するほうの主体を表しているようにも取れるので、少し分かりにくいのではないのかなと思いました。

○委員長

この一番下の文は、「おわりに」から取ってきています。そこを分かりやすい表現に変えていきたいと思います。確かに、主体、主体って出過ぎてる感じがするので。そのほか、いかがでしょうか。

まず、この概要版を手にした方には、さっき委員が指摘してくれたというか、私のメッセージもありますが、チェックシートをとにかくやってもらいたいです。そう考えると、一番下に書いてあるコメントをもうちょっと移動するとか。あえて載せないとか、そこは検討してもいいかなという印象は受けました。無理くり終わらせるよりは、「おわりに」はあるけれど、つながりに着目していろいろな活動の見直しというか振り返りと、今後の活動の展開。それを、みんなで見直していかうみたいなメッセージが発せられればいいのかと思うので、この下のつながりチェックシートの（第3章以下）のところ、その記述を検討したいと思います。皆さんからはいかがでしょうか。

○委員

すごく細かいことですが、概要版の一番下の2つの囲みの中が、つながりチェックシートの説明になってるんですけど、つながりチェックシートという名前のシートであれば、今は、つながりだけが括弧書きになっていて、その後ろにチェックシートとなっているんです。後ろの括弧書きを、「つながりチェックシート」という括弧とじという部分になるのかな。一番下もそうですけど。中を開くと、「つながりチェックシート」という1つの括弧書きになっているので、今回のチェックシートの名前を統一して出した方がいいのかなと思いました。

○委員長

開けたら、チェックシートまでが括弧の中に入ってますもんね。そこも修正していきたいと思います。ほか、いかがでしょうか。特に、概要版についてはもう少し、今後、報告書よりも頻繁に活用する場合も多いので、少しワーキングでも検討を加えて、よりよいものにして、確定にさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。また、報告書も、いただいた御意見はできる限りお応えする形で、加除修正等をさせていただくように検討していきたいと思いますが、そのほかよろしいでしょうか。

では、本日も貴重な御意見をありがとうございました。これらをもって協議は終了しまして、報告書がまとまりましたら、私のほうで教育長にお渡しするようにしていきたいと思います。教育長さんも、こちらから提出したらいろいろ参考にしてくださるということなので、それに期待していきたいと思いますが、貴重な御意見を本当にありがとうございました。

それでは、本日、最後の委員会となりますので、委員の皆様から一言ずつ、第38期を振り返って、お言葉をいただければと思います。私は後で。回っていくことで、御発言をお願いします。一応、3分程度と言っていますが、若干、時間に余裕があるので思いの丈は全部言い残したことはない状況にいただければと思います。

○委員

皆様、2年間、ありがとうございました。そのうち、何回か欠席になってしまったんですけど、欠席の理由のほとんどが、社会福祉協議会で災害支援に行っておりまして、出席することができない回がありました。

社会福祉協議会の立場で参画をさせていただいておりまして、社会福祉協議会は、地域住民の方々とか関係機関、福祉団体等と地域福祉を推進する民間の団体です。本日の午前中も、昨日も、これからも、地域づくりを関係機関の方々、地域住民の方々と一緒に取り組んでいく組織です。いわゆる社会教育の視点から通いの場、集まりの場を立ち上げるとか、継続することの課題、高齢者、高齢化になりまして、やはり月に1回が限界だよとか、集まる場に今、非常に大きな課題を持っています。本当に地域のつながりが希薄化している状態がある中で、どうしたらみんなが参加できる地域を目指せるか、それをなりわいとさせていただいております。

社会福祉協議会の職員の多くは、社会福祉士の国家資格を持って、コミュニティーソーシャルワーカーですとか、コミュニティーワーカーという形で地域のつながりを持った組織です。今回、ウェルビーイングを目指すところとか、誰一人取り残さないところは、我々の社会福祉協議会、社会福祉法においても、重点項目として取り組んでいる次第です。

当庁も、社会教育委員、生涯学習課と連携をして、同じ方向性を持って取り組んでおる次第でございますが、やはりこの先に何を見据えていくかが、災害を見据えた地域づくりであろうと思って

おります。社会教育という1つのテーマとして、地域の方々等が集まって、お互い学び合って、お互いの考え方を深めていって、新たな気づきを得るところは、本当に共通したことだと思います。私も今までその視点がなかったものですから、この2年間の経験を生かし、学び合うところと、助け合うところを融合した事業を進めていきたいと思ってる次第でございます。

また、つながりチェックシート、非常に忌憚のない御意見をいただきまして、ありがとうございます。社会福祉協議会の事業で掲載させていただいたんですけれど、この事業が始まりましたのがコロナ禍でのスタートとなりまして、今までつながりを基準としてきた取組がつながれなくなったことで孤立化した、これをどうにかしようということでメッセージ、人々が集まる以外の方法を取ったものになります。昨今ですと、メタバースという考え方、オンラインの集まりで直接的に会う以外の方法も模索されてきているところですので、今後も皆さんと色々なアイデアと工夫、いろんな考え方を調和させていただきながら、前に進んでいけたらなと思っております。

2年間、お世話になりました。ありがとうございました。

○委員

本当に2年間、ありがとうございました。私は学校教育、自分が高校におりますので、学校教育の立場から、こちらでの意見を述べさせていただいてきました。

私の視点ではとても持ち得ない様々な視点を委員の皆様からいただいたことで、私自身も、学校教育と社会教育がぼんやりつながっているぐらいは感じていましたが、そのところを、学校教育の側からも生徒の資質の育成において、考えていかななくてはいけない。また、社会へのつながりという意味で、教育課程の中にも入れていくような考え方を、文科からも言われてはいますが、より一層、強く感じる機会になりました。

今回のつながりのチェックシートですけれど、2年間の中で社会関係資本とか、生涯学習推進フォーラムのいろんなことを協議する中で、私たちがもっともっと持っていかななくてはいけないつながり、社会との関係、人々のつながりを感じるがありました。また、今の時代、委員からも、災害が次々やってくること、世界を見渡せば本当にひどい状態の紛争、戦争が起っている中での我々の未来について、子供たちにどんなふうに伝えていかななくてはいけないか、社会教育をきっかけにしながら考えることもできましたので、また、この経験を私自身も続けていき、学校にも還元できたらと考えております。

本当に2年間、どうもありがとうございました。

○委員

2年間、本当にありがとうございました。

活動を続けている中で、御縁があって、いろんなところから事例発表の依頼は今までもあったん

ですが、それまでは主に学校現場を支える、いわゆるボランティアさんたち向けの研修のときに、お話ししてくださいと声をかけていただくことが多かったです。この2年間は、教育現場、例えば夏の教職員研修に呼ばれてお話をしてくださいということで呼んでいただいたり、社会教育の方々が集まる場で話をしてくださいと言われてたり、また、ライオンズクラブなどの社会奉仕団体の方に声をかけていただいて、お話をしてくださいと言われてたり、幅広い分野の方に声をかけていただくなど、貴重な機会を得られることができました。生涯学習推進フォーラムでも、本当に大変貴重な機会をいただき、自分自身の活動を振り返るいい機会にもなりました。

この2年間、私自身も新しいつながりの中で、たくさんの方々からヒントをいただいたことがありまして、また、知識も深めることができましたので、それを地域に還元できたら、地域に返していけたらいいなと思って、この場を今、かみしめているところです。

社会福祉協議会さんでも、南小学校では、サロンを南小の会議室で開いていただいて、そういったところでも、地域と子供たちとか、福祉の場でのつながりがすごく増えてきています。ぜひ、そういった活動が少しでもいろんなところで、「もしかしたらできるかもしれない、自分のところに似てる活動があるから、それをまねてやってみたらできるかもしれない」というきっかけの1つになればうれしいなと思って、これからも地域のおばちゃんとして、ブンブンハチのように飛んで歩き回りたいと思いました。ありがとうございました。

○委員

今日も、資料を作っていたいただいたものを拝見していて、例えば3ページの社会教育情勢の変遷の始まりが、第14期が昭和49年で、事務局組織の変遷の始まりが48年、45年からになってますけれど。実は私、昭和48年に、社会教育課の中の文化財係にいましたので、大体51年前なんです。当時、社会教育ってすごく元気で、公民館から婦人教育から、大変な事業の内容があったわけです。それと、ちょうどその頃、戦後20年、30年弱ぐらいで、社会教育、生涯学習とか、そういう考え方も色々ありました。5ページに、昭和40年、ユネスコのポール・ラングラン生涯学習、生涯教育入門という本が書いてありますけれど、これも私の最初の頃、勉強した覚えがありまして、未来があるというか、夢があるというか、そういう考え方だったと思います。

それから50年たって、私が今回委員会に参加させていただいたのが、社会教育施設である博物館がどうなってるか、その立場の1人に入ってということで、お伺いしたわけです。

こちらの社会教育委員会の、あるいは県の社会教育行政の動きとは別に、社会教育施設である博物館、美術館、図書館は、時代と社会からの要求が強くて、観光とか、自立していきなさいという要望が大変強くなってきているわけです。自立といいますか、そういう中で、社会教育施設があらねばならないのは誰もが共通認識であって、そういう中で、この社会教育委員会で社会教育施設をどう捉えるか、多分、ほとんどなしで来たのではないかという気がするんです。それは、この教育

委員会の教育行政の流れを見ても、文化振興は知事部局に行き、文化財も知事部局に行き、婦人教育とかほかのものはみんな知事部局に行って、教育委員会の社会教育が学校教育の補助といえますか、児童、生徒が学校から帰った後、どうするかというのが社会教育の考え方。昔で言うと、青少年教育にもなるんでしょうけれど。何となく違和感をもっています。

それが1つと、県立美術館が昭和61年に開館いたしまして、その前、6年間準備室があったんですけれど、その中で、教育普及はどうするかということで、ボランティアと友の会を一生懸命やろうとして。当時は、個人が学ぶのが社会教育だ。それが全てではないにしても、静岡県で寿大学とか、そういうのがあったという気がするんです。

もう一つ、定年退職後の大人もこれから社会へ出てくんだと、そういう人たちの勉強し直しというか、社会への参画の仕方の学び直しといえますか、そんなことも非常に熱心だったような気がするんです。逆に言うと、社会教育委員会で、児童、生徒の、学校から終わった後の活動に対する助言をしてきて、先ほどの老人とか婦人とか、一般の社会教育で担当していた部分が、何かないがしろになってるのではないかなという気がしているんです。

あとは、団塊世代が定年になっていくと、時間を持って余す人が出てくるから、民間のカルチャーセンターで学ぶ人が出てくるのではないかという話もあったんですけれど、財布のひもを締めてしまって、全然、勉強に行かなくなってしまっている。その人たちは、一体どこへ行ってるのかなという気もするんですけれど。何となく、これでいいのかなという気がしていて、個人的な感想で申し訳ないですけど、社会教育は何をしたらいいのか、何となくいろんなところが出ていかれてしまって、残ったところの仕事を今している、そんな気がしているんです。

社会教育施設が社会教育に絡んでくるのが、あまり機会がなくて。それぞれが、自分たちの教育普及活動をしなくてはいけないし、収入も上げなくてはいけないし、自立していかななくてはいけないし、その責任が重くなってきてるものですから、あんまり意識してないというのが、結果的に社会教育には関わるわけですけど、ちょっと見方が違うじゃないかなという感じを、2年間参加させていただいた感想です。

あまりお役に立てなかったかもしれないし、申し訳ない部分が多かったですけれど、今、社会教育委員会のテーマを、昭和49年からの傾向と審議テーマがあるんですけれど、時代が変わっても求められてることは同じなわけで、それぞれに応じてそれぞれの答えをつくらうとして、回答を作ったと思うんですけれど、本気でこの社会教育はどうしたらいいのか、議論していただく機会があってもいいのかなと思いました。

何か、とりとめのないことを申し上げてしまって申し訳ないです。

○委員

2年間、大変お世話になりました。ありがとうございます。

私は、今回、スクランブルフォーラム、NPO法人として参加をさせていただいて、今回、街中だがしや楽校でシートを作らせていただきました。全部の会議に参加することができなかったんですけど、このチェックシートによって、最終的には、自分に戻ってきたなという感じです。今年の夏に、だがしや楽校を開催させていただいたんですけど、自分たちの活動の足りないところがチェックできて、本当に勉強になりました。そして、今さらながら現地見学やいろんな研修もさせていただきましたが、本当に全部出られなかったことが残念だったなと思っております。

スクランブルフォーラムのお話をなかなかする機会がなかったんですけども、実は街中だがしや楽校は、スクランブルフォーラムの活動の中では一部でした。それ以外にも、今年の夏は、第9回ミニミニ水力発電コンテストで、三島は水がいたるところで湧いているものですから、その水を活用して水力発電を子供たちで水車をつくって、水車でこういうふうに電気は起こせるんだよと勉強してもらいました。今年は23組に参加していただいて、作品を作るだけでなく親子でそろって作る親子参加型で、本当に大人のほうが夢中になるくらい多くの参加者で今年もにぎわいました。

ほかにも、三島大祭りがあるんですけど、頼朝行列の一番後ろを段ボールで作った甲冑を子供たちに作ってもらって、それを着て行列の一番後ろを歩くというイベントもやったんです。お祭りに、しゃぎりだとか、町内では参加できない子供たちが、やはりお祭りに参加してみるということで、甲冑も家族で作る、親子で作る。また、参加して行列を歩くと、かわいい、格好いいと見てくださる方々が声をかけてくださるので、子供たちは、また来年も参加したいという意欲だったり、自信になったりということがあって、いろんな活動をさせていただいています。

過去には、三世代でやるペタンク大会や思いやりの絵本を1年かけて作ったこともあります。楽寿の森音楽祭もやったことがあります。コロナ禍で継続できなかったものもありますけれど、「伊豆を元気に」という合い言葉の下、いろんな活動をする中で、改めて、このつながりを持って活動できているなど、また、新たなつながりも求めたいと感じたところです。次世代を担う子供たちの健全育成もありますけれど、地域活性でそれが社会の活性化、地域の活性化になっていくんだなど、改めてここに参加しながら、貴重な経験もさせていただいて、皆様の貴重な御意見を伺った中で、勉強させていただきました。

今回も、参加させていただいたことをまた持ち帰って、活動を一緒にしてる方々にお知らせしながら、自分たちも活性化していきたいと思っていますし、三島が活性化できるように尽力していたいなど改めて感じました。貴重な経験をさせていただきまして、本当にありがとうございました。

○委員

2年間ありがとうございました。

この場で得た情報や気づきを普段の業務にも生かすことができ、本当にいい経験をしていると

思っています。漢字には、音や意味を伝える便利さがあるのに対して、米国からやってきた言葉、外来語は片仮名で表記しています。その外来語の中には、訳を知らなければ分からないものもあります。例えばサステナブルと言われても、サステインってなかなか中学では教えてくれなかった言葉だったので、ちょっと難しいですけど、例えばウェルビーイングとか、第37期の後書きでも使ったアップデート、これは初級の英単語の組合せだから、中学生でも何となく意味が分かる。ところが、何となく意味が分かるというのがくせ者だと、この委員会で今、気づいた。深く理解する必要がないと、分かったような気になっていると、実は全然分かってないことしか分からないことに気づかせていただいたのが、この委員会だったと振り返ってます。

私は36期の途中から参加して、これで3期目ですけど、学校教育と社会教育について、さきほど委員が言ったように、今までは別のものとか継続するものと考えていたんですけど、実は学校教育と社会教育は、同じ段階のものではないかなと思います。また子供に対しては、在学中から社会教育が非常に大事で、それは図書館とか美術館、公民館の体験教室ですけど、部活や夜間中学の活動のことを聞くと、社会教育、施設の整備はもちろん大切だけれど、それを両方つなぐ人材の育成こそ必要だなと強く思って、それで後書きもこのような形に書かせてもらいました。人材育成というと、最近はデジタル人材の育成のことばかり言うけれど、実は人をつなぐ人材こそ必要で、この育成は時間がかかることじゃないかなと思うんです。教えられて覚えることではなくて、経験しながら気づくことのように思いました。

そのようなことを考えて、新聞は折に触れ公共性をアピールしているんですけど、新聞にも、もしかしたら、いや、もしかしたらじゃなくて、きっと、社会教育の一端を担う責任があるんじゃないかなと、そう認識を新たにしたところです。

○委員

第38期の委員会で、2年間、大変お世話になりました。ありがとうございました。

私、第38期の委員会に参加させていただきまして、2点、感じたことがありましたので、お話をさせていただきます。

まず1点目、今回、皆さんと最終回で報告書を確認させていただき、この報告書がこれから県への提言書になると思うんですけど、新しい提言方法かなと感じました。というのは、私も牧之原市で社会教育委員を平成10年から、かなり長い間活動させていただいておりますけれど、今までは、市でも県と同じように提言書なり答申書を提出してまいりましたが、その内容は具体的で分かりやすく少し決めつけたような形で、これをやったらいいんじゃないという形で提言をしてきました。それは、県と比べますと、市ですので、かなり視野が狭い範囲でかなり使えるところはあると思いますが、けれど、今回の委員会に参加させていただきまして、そうは言うものの、全部がそれに当てはまるものではないんだよと実感をいたしました。

そういうことですので、今回の提言書のように、使ってみてということ、あと使い勝手は自分たちのまちに合った、地域に合った、皆さんの活動団体に合った形で使っていただければいいかなと、そういう自由なところがあって、あまり決めつけるものではないから、非常に使いやすいかなと感じました。こういう方法は提言方法としましても、今後、求められているものなのかなと感じました。それが1点目です。

2点目は、私は結構、社会教育委員も長くて、いろいろと提言もしてきたのですが、最終的には、提言書がいかに使ってもらえるかということです。今回の38期の提言につきましても、皆さんに使ってもらうためには、他人事ではなくて、自分事として考えてもらわないと使ってもらえないかなと思っておりました。

今回の提言方法も、報告書にまとめた形で、皆さん見てね、読んでねだけではなくて、つながりチェックシートを使ってみてねというところが、1つのポイントになっているのではないかなと。それを使ってみることによって、自分事として捉えてもらえる、考えてもらえるところがあるので、これは、すごくいいアイデアかなと思っております。いずれにしても、社会教育委員の提言書だけではないですけど、何にしても、自分事としていかに捉えてもらえるかが非常に大切かなと思っておりましたので、今回、委員会に参加をさせていただきまして、そんなところが大変参考になりました。

皆さん、2年間、ありがとうございました。

○委員

菊川市の社会教育課長、まさしくそんな肩書ですけど、この委員のお話をいただいたときに、社会教育課長になったばかりで、まだまだ、これからいろいろ勉強しないといけない中で、このテーマのウェルビーイングとは何、というところからでした。それぞれ専門分野で活躍される委員の皆さんの取組事例を参考にさせていただいて、今やっている事業にも生かしていただけるのではないかなと思います。いろいろ協議する中で、地域の主体とのつながりといったところがテーマであったと思いますけれど、自分が社会教育課長の前は長寿介護課で高齢者施策をやっていたんですけど、そういったところも、地域の中で高齢者の見守り体制をどうやれば築けるのか、地域包括ケアシステムというものがあまして、それぞれの地域のやり方で何ができるか、ちょっと共通点があるなと考えながら、今回も、昔やったところの知識を引っ張り出しながら話を聞いていました。今やっている事業も、改めてチェックシートで見直すきっかけにもなったと思っています。

今、社会教育課では、地域の方が放課後の子供たちとつながりを持って、スポーツをする放課後子供教室であったりとか、あとコミュニティスクールも始まっていますけど、そういったところも、また地域の皆さんとつながりを持って、何ができるかを考えていくところです。

最近ですと、中学校の部活動が地域移行で、今までは中学生が学校の中だけで、先生と生徒で部

活動していたものが、先生の働き方改革であったり、団体スポーツで人数が集まらないといったところで、地域のスポーツ団体とか文化団体とか、指導者がいればそこを面倒見てくれる方がいないかというところで、徐々に地域移行していこうという動きがあるんですけど、そういったところも、今回のような地域の主体とのつながりというか、それも部活が、今までやってたものができなくなってしまうという考え方ではなくて、地域の中に中学生が出てきてくれる形で、今回の終わりのほうにまとめでもありましたけど、コロナとか時代の大きい変化で、意識して、つながりを構築していかなければならない時代を迎えつつ載ってますけど、まさしくそうだな。そういったところを意識しながら、今後取り組んでいく事業も、そういった気持ちでやっていかなきゃいけないなと感じました。

個人的に言いますと、グループワークもあったんですけど、概要版にもまとめていただいた、ウェルビーイングを成り立たせる要素の、3つの要素の中の真ん中に、誰もが今より少しいい未来、自分が付箋に書いたのがここに載ってて、それだけで、自分は今回満足しています。ありがとうございました。

○委員長

委員は欠席ですけど、メッセージを下さったので、事務局からお願いします。

○事務局

委員からは、委員会前にお言葉をいただいておりますので、代読させていただきます。

本日は、所用により欠席となり、誠に残念に思います。この2年間、社会教育委員会に参加させていただきました。ありがとうございました。

今までは、学校教育からの視点で子供を見ることが主でした。しかし、この会議に参加するたびに、他者とつながることができる社会の大切さを実感し、社会教育という大きな視点で学校教育を考えるようになりました。誰もが幸せに暮らすことができるウェルビーイングを実現するためにも、小学校段階で、様々な人、もの、ことに出会えるようにしていきたいです。

○副委員長

今日いただいた御意見等を、また後で、議事録等で確認させていただければと思います。いろいろありがとうございました。異動してしまったものですから、この期間中、オンラインばかりの参加になってしまい、申し訳ありませんでした。にも関わらず、このような様々な御配慮の下で会議参加の便宜を図っていただき、ありがとうございました。いろいろ貴重なお話や御意見を賜り、大変勉強になりました。

社会教育委員会議といったものは別にこれで終わりとか完結ではなくて、また、次期の委員さん

なり会議体に引き継がれていくものであらうと思いますので、今後、この成果を静岡県社会教育行政等に生かしていただければと期待しております。とりわけ、決して国の後追いをしなければならないということではないですけど、国のほうで、今、社会教育法の改正を見据えた、つながり、あちらはどちらかと言うと人材育成になるんですが、そちら方の検討をされているように聞いております。また、関わっていかれるといいのかなと、僭越ながら思っている次第です。

いずれにしても、ありがとうございました。また、何かの縁でお世話になれば幸いです。

○委員長

それでは、最後に私から一言、御挨拶を申し上げたいと思います。

2年間、教育長さん、12回もしたんですかと驚いてくださいましたが、皆様、お集まりいただき、貴重な御意見いただきまして、ありがとうございました。私は、静岡県社会教育委員会は延べ18年。10年やって、2年ブランクあって、ここまでで8年になっています。専門分野で関わらせていただいています。委員からもお話があったんですが、社会教育の立ち位置とか教育全般の在り方が、社会情勢の変化の中でいろいろに変わってきてるなど、いろんな仕事を通じて感じております。とりわけ現在は、世の中、多様性を認めようとする一方で、それがこじれると、某国のことだと分断という言葉が使われますけれど、対立を招いてしまう。多様性を超えて調和していくはずが、そこがうまくいかないと完全分断してしまう。結構危ういというか、割とどっちに転ぶかわからないところを歩いていると思うんです。そういう中で、いい意味でのつながり、意識をちゃんとしたつながりが本当に大事じゃないかなと、いろんな行動等も見て感じています。

一番近々のところで言うと、この頃、極端な、非常に稚拙な強盗傷害事件がすごく起きていて、そういう人たちがどうしてああいうことをするのかという、つながりはつくってしまうんです。つながった先が、あらら、そこにつながっちゃうのという状況です。でも、そこにつながりを求めてしまった原因は何かという、その人は多分孤立していたから、何かつながりたくて、つながる動機もあれですけど、それでつながったところが全然違ってしまった。

もしあそこで、そもそもつながりがきっちりできていれば、意識した健全というか、自分を生かせるようないい意味でのつながりができていたら、あれは完全に回避できたのではないかと思うと、なかなかこの社会はつながらなくても生きていけるんだらうと錯覚する社会ですけど、そういう中で、意識ある者が意識的にそういう人たちをちゃんと巻き込んで、つながりをつくっていくことが本当に大切じゃないかな。

つながりよりも、学びをとおしてつなるとか、つながりながら学ぶとか、今、いろんな個別学習もできる時代ですけど、つながりを大切にしていくことが重要ではないかなと感じています。そして、この会議はコロナが明け、ある意味、完全に明けた状態では初めての会合で、ほとんどが対面で可能になったもので、改めてそういう状況の中での、メタバースの話もしてくださったんで

すけれど、コロナ前に帰るんじゃないなくて、これからの社会に向けてのつながり方を、委員会自体も模索していたところがあるのではないかなと感じています。

私自身も、仕事や活動、私生活も含めて、人間が生きていくときに、つながりって大事だなって、つくづく思っている部分もあります。このつながりを前面に出した報告書を出せたこと、そして、委員にはもったいないぐらい、画期的だと言っていただけで。たしか回の途中で、今までにない、もっとイラストとか入れた読みやすいものとか、新しいものにしようよみたいな話もあって、あんまりイラストは入れない形になりましたけど、ちょっと挑戦したものにできたかなと思います。本当に不透明な時代なので、これでよしという結論めいたものを発信するよりは、答えをみんなで探していきましょう、そういう仲間を増やしていくような働きかけが、今、重要かなと思っています。

そういう意味で、本当に皆様から御意見をいただき、報告書を何とか形にして、教育長に出せていけるかなと思いますので、本当に皆さん、これまで御協力、いろんな忌憚のない御意見、本当にありがとうございました。これで御縁が切れるわけではなく、引き続き、いろんな場面で。また私たち自身もつながっていいアイデアを出したり、活動を充実させたりということができていったらと思います。今後とも、よろしく願いいたします。

報告書は、12月の定例委員会で、私のほうで教育長に手交を行います。また、ここで取りまとめた内容は、副委員長からも話がありましたが、これで終わりではなく、次期の社会教育委員会にもつなげていけたらと思っています。本当に2年間、ありがとうございました。

それでは、議事進行を事務局にお返しします。

○事務局

委員長、議事進行等、ありがとうございました。

ここで、事務局から連絡事項3点、お願いいたします。

1点目は、報告書と概要版について、本日の御意見を踏まえ、ワーキング委員の皆様と最終確認をさせていただいて、完成まで持っていきたいと思っています。完成した報告書ですが、皆様のところへ郵送させていただきます。

2点目は、本日の会議録です。これまでと同様、2週間程度で会議録、皆様にお渡しできるかと思っていますので、確認と修正をよろしくお願いいたします。

最後に、本日、資料の中に他の班になりますけど、案内チラシがありますので、そちらも御覧いただきたいと思います。

以上、3点、よろしくお願いいたします。

それでは最後に、社会教育課長が挨拶を申し上げます。

○社会教育課長

2年間、本当にありがとうございました。

教育長も言うておりましたけど、2か月に1回行うことが条例で決まっています、本当に大変な委員会だと思います。普通、こういった委員会は、事務局の作成したストーリーがもともとあって、それに沿って審議してもらうことが多いですけど、この静岡県の社会教育委員に関しては、そういうことではなくて、委員の皆さんに協議いただいて、最終的に報告書を作っていただいています。大変、御負担も大きかったと思いますけれど、出席率も非常によく、毎回、たくさんの方に御都合をつけていただいて、本当にお忙しい中、ありがとうございました。

諮問をして、報告をもらうというパターンを社会教育委員会はずっとやっています。毎回、諮問題を考えるとすごく悩むわけです。もともと社会教育が、捉えどころのなかなか難しい分野で、時代によってすごく変わってきていますし、今の社会教育がこれでいいのか、社会教育課に長くいるんですけど、そういう思いもある中、36、37期が子供の貧困とか社会的包摂で、かなり福祉へ寄りました。その辺が社会教育の懐が深いところで、いろいろなアプローチがある。だけれど、37期までは割と福祉的なほうに寄っていたということだと思います。

38期のときに、部内でどういう諮問にするかを悩みました。結局、コロナもあり、時代も大きく変わったことから、ここでもう一回、社会教育を見直そうということになったのです。ただ、それがあまりにテーマが大きいもので、どういう報告が出るのだろうと、私も全く想像がつかなかったのです。という中で、つながりに着目をして、報告をいただけた。それから、チェックシートは、委員からお話がありましたけど、今までにないような、これでやってごらんという報告で私が想像もしてなかったような報告をいただけたかなと思います。本当にありがとうございました。

長くなりましたけども、2年間の皆様の御尽力に感謝いたします。どうもありがとうございました。

○事務局

それでは、皆様、ありがとうございました。

以上をもちまして、第12回静岡県社会教育委員会を閉会いたします。2年間にわたる御協議、本当にありがとうございました。